

2017年9月29日

サンフランシスコ市長
エドウィン・M・リー 様

貴殿には常日頃より大阪市との姉妹都市交流にご尽力いただき、大阪市民を代表してお礼申し上げます。10月には貴市代表団も来阪されると伺っており、貴殿と再会できないのが残念だが、心を込めて歓迎したい。

さて、現地からの報道等により、9月22日に慰安婦像の除幕式が行われたと聞いた。また、同日を「慰安婦の日」とする旨、9月19日の市議会で決議されたと聞いた。

貴殿に対して2017年2月1日及び2017年3月29日に発信した書簡においてもご指摘させてもらったように、歴史研究者の間でも議論が分かれる慰安婦の数、旧日本軍の関与の度合い、被害の規模について、不確かで一方的な主張をあたかも歴史的事実として刻まれた碑文は、歴史の直視ではなく単なる日本批判につながるものではないかと大いに懸念している。

また、現在は私有地に設置されている慰安婦像及び碑であるが、今後、公有地に移管される計画もあると伺っている。姉妹都市提携60周年という歴史的な節目の年に、このような動きが現地コミュニティに分断を持ち込み、姉妹都市交流にネガティブな影響を及ぼす可能性があるのではと大いに心配しているところである。

私自身、長年培った良好な姉妹都市関係の継続を切に望んでいるが、もしサンフランシスコ市の意思として、公有地への慰安婦像及び碑の移管がなされることになると、大変残念ではあるが姉妹都市関係を根本から見直さざるを得ない。

貴殿とは昨年8月にお会いし、良好な関係があるからこそ、このような率直な見解を述べる事が出来ると思っている。両市の将来の輝かしい未来のため、くれぐれも慰安婦像及び碑が公有地へ移管されることのないよう、貴殿の思慮深い対応を強く望む。

なお、この書簡については、前回の書簡同様、サンフランシスコ市民の皆様はもとより、大阪市民の皆様を含めて広く知っていただきたいとの趣旨で、公開書簡とさせていただきますのでご理解ください。

大阪市長
吉村 洋文